

KOGANECHO BAZAAR 2019

アーティストプロフィール

※作品は現在制作中のため、ここで掲載している画像はすべてイメージです。

アカサ・ブックストア Akasa Bookstore [インドネシア]

2017年、アルフィア・ラッディニとアスリー・トレスナディ、ユッサン・アフマッド・ファウジにより、昔ながらの市場パッサール・チハピット（バンドゥン・インドネシア）に本屋として開業。出版やティー・バーの運営、シャイフル・ガリバルディ、本間メイとアートプロジェクトを行う。本展では、アジアの様々な本やお茶を通じて、ローカルな文化交流が生み出す親密な公共圏の在り方を提示する。会期中は、音楽イベントやトークイベントも開催。



Akasa Bookstore

アヌラック・タンニャパリット Anurak Tanyapalit [タイ]

1992年、タイ・プレー生まれ。現在チェンマイを拠点に活動。絵画、インスタレーション、サイトスペシフィックワーク、パブリックアートなどの異なるメディアを横断する作品を制作。科学分野や都市化、日々の生活における「プロセス」に興味を持つ。本展開幕前に、電車の生み出す音をもとに現代のモンスターを想像する市民参加型のワークショップを開催。そこで生まれた作品に、アヌラックの音響作品を組み合わせで展示作品を制作する。

*横浜音祭り2019連携



Equinoctial, 2016

天草ミオ Mio Amakusa [日本（黄金町 AIR アーティスト）]

1990年、埼玉県生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻修了。2017年から黄金町AIRプログラムに参加。少女のイメージやぬいぐるみなどを使って、ドローイングやオブジェ、パフォーマンス作品を制作している。本展では黄金町での生活のふとした瞬間に湧いた「川に少女が流れているイメージ」をもとに描いた絵画作品を発表する。絵画の表と裏の関係を逆転させて観せることで、観客の一方向的な視線の解体を試みる。

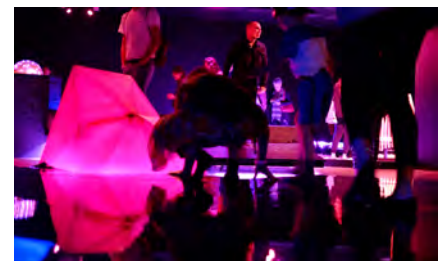


Never let her go, 2019

エレナ・ノックス Elena Knox [オーストラリア]

東京を拠点に活動。現在は早稲田大学 基幹理工学研究所 表現工学科 表現工学専攻で研究を進める。オーストラリアのニューサウスウェールズ大学アート&デザイン学科メディアアートコースにおいて、彼女の博士論文は大学院研究部門にて優秀賞を受賞。デジタルメディア、パフォーマンス、彫刻、サウンド、音楽そしてインスタレーションなどの分野を横断した作品を制作する。

本展では、自己完結型環境の水槽「エコスフィア」の中では繁殖をしないエビをモチーフに、持続可能な社会とは何か、エビのためのポルノとは何かについて考えるワークショップ「ヴォルカナ・ブレインストーム」を会期前に開催。そこで参加者が考えた解決の糸口をインスタレーションとして展示する。

Snoosphere, 2017
photo by Lindsay Webb

シジ・クリシュナン Siji Krishnan [インド]

現在インド・コチを拠点に活動。2005年にケララ州ラジャ・ラヴィ・ヴァルマ美術大学で学士号を、2007年にハイデラバードのサロジーニナイドゥ美術学校で修士号を取得。彼女にとって絵を描くことは、身体的な感覚とその記憶を記録し、過去の経験を思い返すと同時に現在の感覚を過去と結びつける行為である。本展では、インド南部の村で過ごした幼少期の記憶をモチーフに、ともに生きる人々の水平的な人間関係を描いた絵画を展示する。また、高架下スタジオ Site-A ギャラリーにて、日本の小さな共同体の人間関係をリサーチして制作してた新作を発表（新作は10月から公開予定）。



Family Portrait, 2016, detail 1

<本リリースに関するお問い合わせ>

特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター（広報担当：立石、山野、神田）
〒231-0054 横浜市中区黄金町1-4 先 高架下スタジオ Site-B
Tel 045-261-5467 Fax 045-325-7222 E-mail info@koganecho.net

程仁珮 (チェン・レンペイ) Cheng Jen-Pei [台湾]

1983年台湾・高雄生まれ。現在台北を拠点に活動。パフォーマンスやプログラムアートを中心に制作。本展では、「お祝いのときの過ごし方」をテーマに、食文化の側面から国や地域ごとの差異について表現します。黄金町周辺に住む一人暮らしの方をリサーチし制作した写真作品を、台湾で発表した過去作品とともに展示する。



Recipe evolution movement, 2017-

曹澍 (ツァオ・シュウ) Cao Shu [中国]

現在中国・杭州を拠点に、ニューメディアアートの分野で活躍。中国美術学院インターメディアアートスクール卒業。主に3Dレンダリングアニメーションとインスタレーションの作品を制作。近年、CG技術を用いて、個人の記憶と夢の断片について行ったリサーチをベースに、CG空間での経験について探求する。本展では、八百万の神という日本の自然観と、完璧なはずのプログラミングでも発生するデジタルのバグ/エラーに注目した作品を発表。「予期せぬバグ」がいかに人間という存在と密接に関係しているかをユーモラスに示す。



Corner of the Park | Prologue, 2018

土本亜祐美 Ayumi Tsuchimoto [日本]

1987年、広島県生まれ。2011年広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科メディア造形分野を卒業後、現在は東京を拠点に活動。土地や環境、人からインスピレーションを受け、地域に積極的に介入したアニメーション表現を模索し、手書きやデジタルドローイング、実写を映像内で意図的に組み合わせた短編アニメを主に制作している。本展では、黄金町の歴史、特に「アートのみち」へと変化していく時代に着目したアニメーション作品を発表する。まちに点在するいろいろなものをキャラクターにすることで、歴史とともにまちを散策するきっかけをつくる。



黄金町バザール 2019 出品予定の新作イメージ画像

常木理早 + 要田伸雄 Risa Tsunegi + Nobuo Yoda [日本 (黄金町 AIR アーティスト)]

2016年から黄金町 AIR プログラムに参加している常木と、現在東京を拠点に活動している要田は、手紙の交換やお互いの制作に影響を受けながら構成された二つの個展を二会場で開催。そこにはいないアーティストたちの痕跡を感じさせる観客参加型の作品を発表する。



Risa tsunegi
Arch Pipe, 2018
photo by Shinya Kigure

Nobuo Yoda
waiting, 2017

ナリッサラ・ピアンウィマンサ Narissara Pianwimungsa [タイ]

現在タイ・バンコクを拠点に活動。2004年にシラパコーン大学美術分野絵画コースにて修士号を取得して以来、画家として活躍。雪化粧した森の風景を抽象化したインスタレーションと、動物が刺繍された平面作品を展示。力強くこちらを見つめる動物たちの瞳は、人間と動物、観客と作品といった、見るものと見られるものとの関係について問いかける。



DOUBLE, 2017

<本リリースに関するお問い合わせ>

特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター (広報担当: 立石、山野、神田)
〒231-0054 横浜市中区黄金町1-4 先 高架下スタジオ Site-B
Tel 045-261-5467 Fax 045-325-7222 E-mail info@koganecho.net

ニワニワパラダイス Niwa Niwa Paradise [日本]

ディレクターの佐藤壮生、アーティストのコタケマン、モデルの池寄瑞希、セラミックアーティストの My ceramics の4人によるクリエイティブユニット。本展では、大岡川や日ノ出湧水などから着想を得た人工庭園が、京急線の高架下に現れる。滝や小川の流れる庭を人々が集まる憩いの場として機能させ、文化や言語を越えたコミュニケーションの可能性を提示する。



黄金町バザール 2019 出品予定の新作イメージ画像

葉栗翠 Midori Haguri [日本 (黄金町 AIR アーティスト)]

横浜生まれ。2009年に武蔵野美術大学卒業後、中国に渡り、2012年に帰国。その後本格的に絵描きとして活動を始め、2015年から黄金町 AIR プログラムに参加。本展では、野毛山動物園をはじめ、国内数カ所の動物園を取材した「動物のいない動物園」シリーズを発表する。動物園や美術展の来場者が求めるであろう期待をはぐらかしたときに、見えるものとは何かを問いかける。



Zoo (sea lion), 2019

吉田ゆう Yu Yoshida [日本 (黄金町 AIR アーティスト)]

1986年、神奈川県生まれ。2017年から黄金町 AIR プログラムに参加。世界共通の恐怖のシンボルであるサメを制作のモチーフに、日常風景にフィクションの事件を起こす。その場面を写真や彫刻、インスタレーションなどを用い作品を制作している。本展では、黄金町の特徴的な狭いスタジオ空間を利用して、水族館の狭い水槽に生きる動物たちを作品化する。



The sharks swimming on the waterfront, 2018

吉本直紀 Naoki Yoshimoto [日本 (黄金町 AIR アーティスト)]

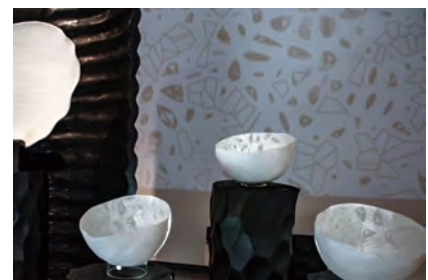
映画・映像作家。2013年から黄金町 AIR プログラムに参加。本展では、横浜大空襲と現代の風景をテーマに作品を撮る写真家と、その被写体となる韓国人留学生ハルとの関係を描いた映画作品を発表する。映画とインスタレーションを合わせて展示し、リアルとフィクションが混在する空間を作り出す。



1/3 Photogenesis, 2018

レイモンド・ホラチェック Raymond Horacek [アメリカ (黄金町 AIR アーティスト)]

マサチューセッツ州郊外の自然の中で生まれ育ち、大学時代にアメリカとフランスでプロダクトデザインを専攻。2019年から黄金町 AIR プログラムに参加。本展ではこの地域のシンボルの一つである日ノ出湧水にプロジェクションを行う。日ノ出湧水は、古くから地域の資源として重宝され、さまざまな人々や動物たちが日常的にそれぞれの使い方をする。多くの人に親しまれてきたまちのオアシスに、映像や音によって普段とは違う動きを与え、「まち」の多層性に目を向ける。



Structural Surface Installation, 2017
Ceramics by Dorothy Feibleman

<本リリースに関するお問い合わせ>

特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター (広報担当: 立石、山野、神田)
〒231-0054 横浜市中区黄金町 1-4 先 高架下スタジオ Site-B
Tel 045-261-5467 Fax 045-325-7222 E-mail info@koganecho.net